



新潟大学

教職大学院案内

大学院教育学研究科 教育実践開発専攻



協働的な実践力を
身につける

実践と省察を
積み重ねて成長する



マネジメント能力と
リーダーシップを身につける



教育学研究科長からのメッセージ

高度な専門性を必要とする「教師」という職業



新潟大学大学院
教育学研究科長

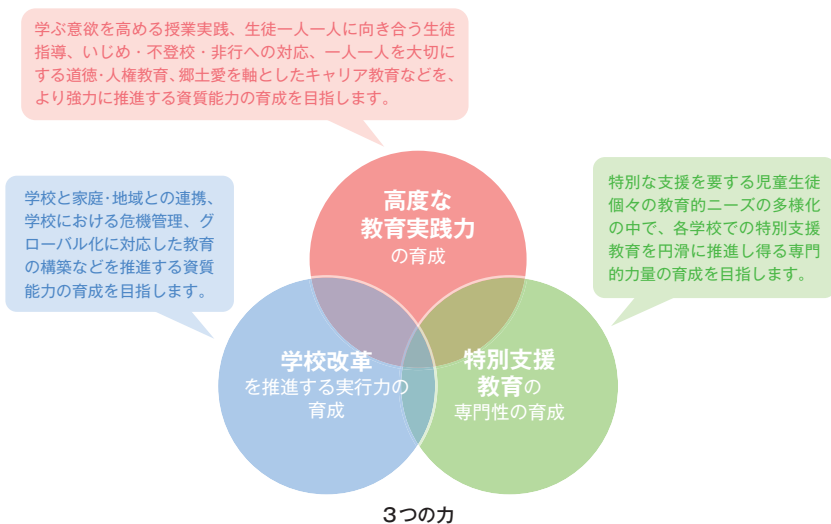
宮 蘭 衛

今我が国は、少子高齢化の急激な進行により、2060年には生産年齢人口が半減するといわれています。またAIの発展は、目の前の子供たちが将来就く仕事のありようを大きく変えようとしています。教師は、そのような予測することすら難しい時代に生きることになる子供たちに、豊かに生き抜くことのできる力を付けなくてはなりません。それには高度の専門性が求められます。つまり、教員養成は、「あるべき知識を伝授する」とどまらず、「未来に生きる力を養う」という創造的な仕事に携わる高度職業専門人を育成するという重大な責務を負っていることとなります。

この責務を果たすべく、新潟大学教職大学院では、「現場に身を置き、生の子どもの姿をつぶさにとらえ、年齢や立場や役割を異にする者どうしの熱いディスカッションを通して、一人では決して到達し得ない幅広い知見と視野とを獲得すること」を授業の基本理念としています。すなわち、「同僚性と協働性をもって教育課題を解決することのできる実践知の創造」を重視しています。

院生一人一人が、2年間の学びを通して同僚性・協働性を身に付け、これからの学校づくりのリーダーに育ってくれることを期待し、教職大学院専任教員一同一丸となって取り組んで参ります。あなたも、ぜひ教職大学院で高度専門職業人に必要な知識・技能を身に付け、「新潟の未来」に貢献できる教師を目指しませんか。

新潟大学教職大学院の目指すもの—3つの力の育成



コースと養成する教師像・学びの姿

教育実践
コース

学部新卒院生等、教員を目指す者

学校現場が抱える様々な課題に対する知見をもち、教職員との協働により、一人一人の子どもの実態に沿ったきめ細かな学習支援や生活支援を行う能力を備えた新人教員。

現職教員院生

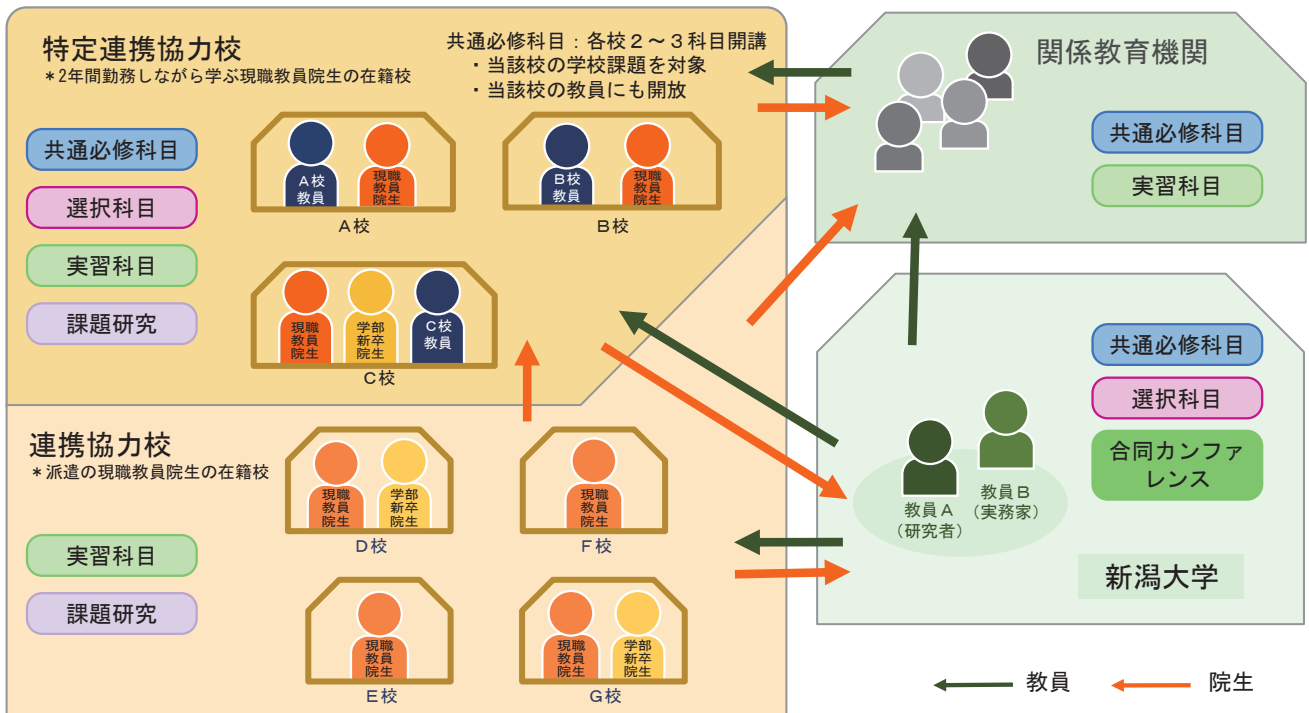
学校現場が直面する課題を解決・克服するための教育実践を、教職員との協働により、構想・実施・検証する高度の実践力を備えた教員。

学校経営
コース

現職教員院生

学校経営に関する総合的かつ高度な知見をもち、自校の課題を的確に把握し、教職員及び地域社会との協働により、組織的に解決するマネジメント能力とリーダーシップを兼ね備えた教員。

特定連携協力校を 中核とした学び



2017年度 特定連携協力校 烏屋野中学校長 石坂学氏 —教職大学院は学校運営の大きな戦力—

特定連携協力校での講義は、学校職員の飛び入り参加に加え、多くの院生にとって普段の学校を感じる機会となっている様子です。加えて、研究主任が現職教員院生としてお世話になっているため、講義やゼミで学んだことがそのまま自分の仕事に生かせ、校内研修や授業改善で大きな成果を上げています。また、現場実習として年間を通して来校する大学院生は、校門での朝の挨拶、昼休みや放課後の見回り、支援を要する生徒への対応や補助など、職員が手薄になるところを補強してくれたり、授業者の指導補助や授業分析で力を発揮したりと学校にとって大きな力になっています。



特定連携協力校での授業風景（共通必修科目「特色ある教育課程の事例研究」）



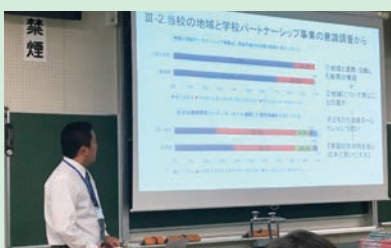
フィールドワーク
（共通必修科目「特色ある教育課程の事例研究」）



現場で実践しながら学ぶ（科目履修生も一緒に学んでいます。共通必修科目「授業研究の理論と実践」）



教員とともに話し合い考えを広げる（課題研究）



発表・議論・振り返りをおして考えを深める（合同カンファレンス）



ICTを利用した教育実践について学ぶ
（選択科目「概念変化と学習過程」）

カリキュラム編成および特色

共通必修領域 (20単位以上)

領域	授業科目の名称	単位数
1 教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程編成の理論と実践	2
	特色ある教育課程の事例研究	2
2 教科等の実践的な指導方法に関する領域	学習デザインの理論と実践	2
	授業研究の理論と実践	2
3 生徒指導・教育相談に関する領域	生徒指導の課題と実践	2
	発達理解の理論と実践	2
4 学校経営・学級経営に関する領域	学級経営の理論と実践	2
	地域教育経営の理論と実践	2
5 学校教育と教員の在り方に関する領域	地域の教育課題と学校・教師	2
	社会のグローバル化と学校・教師の課題	2
6 特別支援教育に関する領域	通常学級における特別支援教育の実践Ⅰ	2
	通常学級における特別支援教育の実践Ⅱ	2

※第1～5領域までの5つの領域から各2単位以上選択、第6領域は2科目4単位すべて必修

選択科目 (16単位以上)

科目群	授業科目の名称	単位数
授業力	授業における学習研究	2
	概念変化と学習過程	2
	問題解決的な学習と評価	2
	授業開発と実践	2
特別支援教育・生徒指導	特別支援教育の事例研究Ⅰ	2
	特別支援教育の事例研究Ⅱ	2
	キャリア教育の理論と実際	2
	教育相談事例研究Ⅰ	2
学校経営	学校安全計画と地域防災	2
	学校のリスクマネジメント法規範	2
	学校評価の開発実践	2
	生涯学習計画立案における学習支援者の実践的課題	2
教育実践探求	課題研究Ⅰ	2
	課題研究Ⅱ	2
	課題研究Ⅲ	2
	課題研究Ⅳ (修了報告書、発表を含む)	2

※「授業力」、「特別支援教育・生徒指導」、「学校経営」に関する科目群のうち、主に履修する科目群から3科目6単位以上を含む8単位を選択。「教育実践研究」に関する科目群は4科目8単位すべて必修

実習科目 (10単位)

コース	授業科目名	単位数
教育実践コース	教育実践課題発見実習 (学部新卒院生)	2
	教育実践課題分析実習 (現職教員院生)	
	教育実践課題検証実習	4
	教育実践課題達成実習	4
学校経営コース	学校経営課題分析実習	2
	学校経営シャドウイング実習	4
	学校経営課題達成実習	4

※各コース、3科目10単位すべて必修

総合大学の強みを活かす

学内の他学部をはじめ、附属学校、新潟県および新潟市教育委員会、連携協力校、各種関係機関（教育センター、相談センター、特別支援教育サポートセンター、地域生涯学習施設等）と連携した取り組み、カリキュラム開発を行っています。

チームによる指導体制

すべての科目を、教育分野の研究者である「研究者教員」と、教職経験を有し理論と実践をつなぐ「実務家教員」とで実施します。



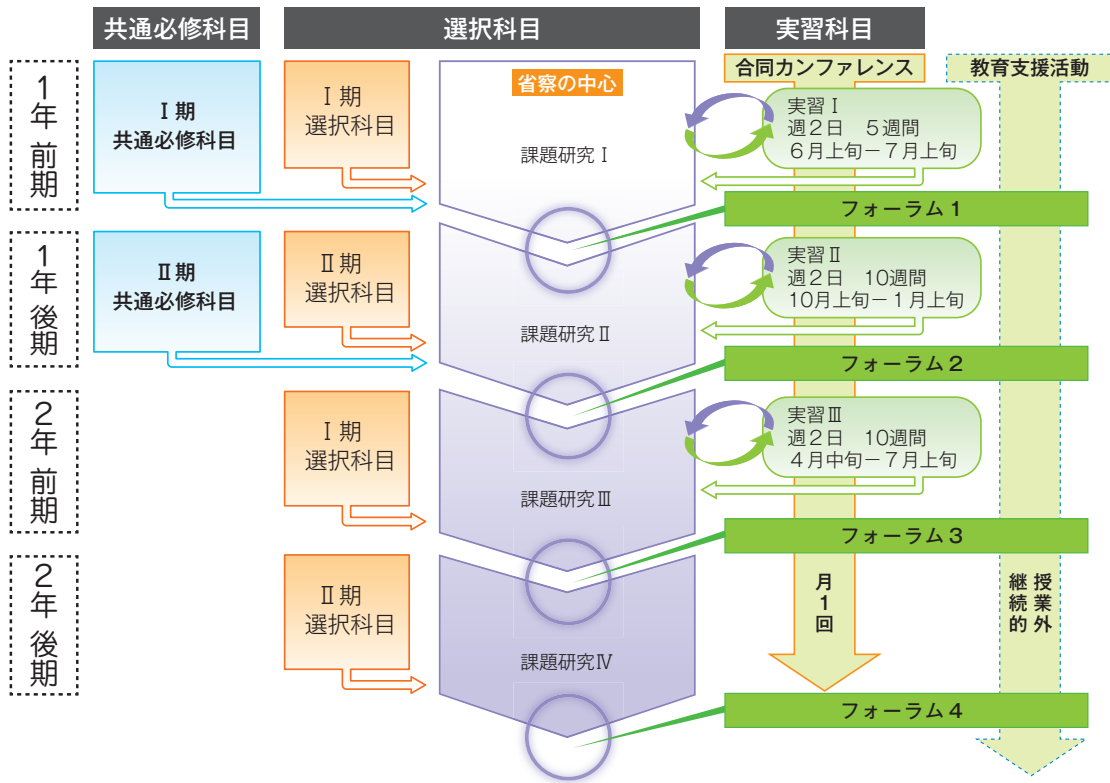
連携協力校での授業（学校安全計画と地域防災）
学外講師を招いて



合同カンファレンス
研究者教員、実務家教員のペアが院生グループの指導に入ります

省察をコアにして 学びを深める履修システム

2年にわたる実習とその省察を行う課題研究を中心に、様々な科目における学びを結びつけながら理論と実践を往還しつつ、学びを深めていくことを支援するシステムを実現しました。



フォーラム

ねらい (1) 半期にわたる院生自身の学びを省察する。(2) 新潟の教育における自身の研究の意義や課題を明確化する。(3) 新潟の教育について参加者とともに考える。

シンポジウム

近年の教育や大学院を取り巻く状況や課題について、大学内外の様々な立場の者どうして議論します。



基調講演

国内外の近年の教育動向について、専門家のご講義から学びます。



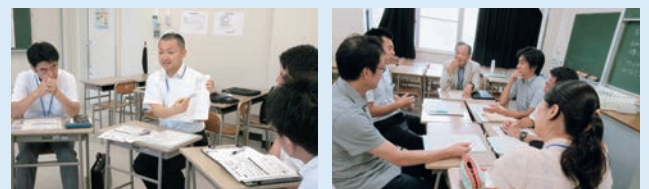
ポスター発表

院生が自身の探究する課題に基づいて発表し、参加者と議論します。



ラウンドテーブル

テーマに基づいて、実践やその悩みを共有しながら、参加者と語り合います。



院生の学びの姿

1年次の時間割例

特定連携協力校の 現職教員院生

	月	火		水	木	金	土 (月1回)
		第1・3週	第2・4週				
1限	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	合同カンファレンス
2限							
3限							
4限		課題研究	実習	共通必修 (4)	実習	共通必修	
5限							

連携協力校の現職教員院生 および 学部新卒院生

	月	火		水	木	金	土 (月1回)
		第1・3週	第2・4週				
1限		実習	実習	共通必修 (4)	実習	選択 (2)	合同カンファレンス
2限							
3限							
4限		課題研究	共通必修 (4)	共通必修			
5限					共通必修		

※週によって異なる科目が入る場合は、1か月間で履修している科目数を丸括弧内の数字で表している。
 ※休業期間に集中履修する科目もある。
 ※時限は大学の授業スケジュール。

教育実践コース（学部新卒院生）

松尾 祐輝

私はこの教職大学院での1年間の学びを通して、理想とする教師像に一歩近づいたと実感しています。

・自身の教育観の広がり

教職大学院では通年で実習校に週2日通い、長期的に生徒の実態や成長を視野に入れた教育活動を行っています。実際の教育現場での経験を豊富に積ませていただき、自身の授業改善や生徒理解など教員としての視野がこの1年で大きく広がったと感じています。また、現職院生とともに1年間学んできたことを通じて、多様な教育観を吸収することができました。

・専門性を身に付ける

私は中学校保健体育科の教員を目指しています。この1年間、実習校での授業実践や授業検討を大学教員と実習校の先生方とともにやってきたことを通じて、保健体育科教員としての資質や能力、授業力が身につけてきました。その中で、保健体育の楽しさをいかに生徒に伝えるかを考えるようになり、指導観や自身の保健体育科教育への関心がより一層高まってきたように感じています。



教育実践コース（現職教員院生）

大矢有紀子

大学院で学びながら、週2日実習校に通うことで、目の前の子どもの姿を大切にしたい学びを実感しています。これまでの実践を講義で学んだことと結びつけ、そして講義で学んだことを実践に活かしていく、まさに「理論と実践の往還」をすることで、様々な実践の意味を深く考えることができ、実感をともなった学びにつながっています。また、研究者教員、実務家教員がいつも熱心にわたしの課題意識に寄り添ってくださり、その深い知見と豊富な経験から御指導いただけることは私にとって本当に貴重な時間です。

また、年齢や職種、経験や専門性を越えて院生同士が熱く語り、互いに高め磨き合う協働的な学びは、いつも私に知見や視野の広がりを感じさせてくれます。そして、何より学び続けることの喜びを与えてくれます。新潟大学教職大学院での学び、そしてここで得たともに学ぶ仲間が、今後の私の教師人生を力強く支えてくれる宝物です。



学校経営コース（現職教員院生）

玉井 博史

現在、特定連携協力校である勤務校で午前中は通常の業務をしています。そして月火木の午後はそのまま、現状の把握や課題の設定など、勤務校の課題を見だし、解決策などを考える実習を行ってきました。水曜は複数の特定連携協力校で講義を受けます。鳥屋野中学校は月に1回、「教育課程」の授業会場となりました。金曜日の午後は直接大学へ行き、授業を受けました。

特定連携協力校のメリットとして、教育課程の講義に興味をもった勤務校の先生方が気軽に顔を出すことができた点が挙げられます。勤務校でも新学習指導要領の「教育課程」について語り合う姿が見られました。

ところで、私は職場では研究主任を務めながら教職大学院に在籍しています。勤務校で職員研修の講師をどなたにするか考えていたときのことで、教職大学院の先生に呼び掛けましたら、お応えいただける先生がいらっしゃり、ご承諾いただきました。研修に参加した職員からは、「明日からすぐに役立つ」という声がとても多く上がり、このことも大きなメリットだと感じました。

勤務しながら大学院に通うスタイルは大変ですが、「大きく変わる」チャンスをいただいたと考え、日々を過ごしています。



教員紹介



あいば かずひこ
相庭 和彦
教授（研究者教員）

担当分野
第5領域
（学校教育と教員の在り方に関する領域）



いぐち ひろし
井口 浩
准教授（実務家教員）

担当分野
第2領域
（教科などの実践的な指導方法に関する領域）



いちやなぎ ともりの
一柳 智紀
准教授（研究者教員）

担当分野
第2領域
（教科などの実践的な指導方法に関する領域）



かね こ あつし
金子 淳嗣
准教授（実務家教員）

担当分野
第5領域
（学校教育と教員の在り方に関する領域）



かみむら えいいち
神村 栄一
教授（研究者教員）

担当分野
第3領域
（生徒指導・教育相談に関する領域）



くも おしゅう
雲尾 周
准教授（研究者教員）

担当分野
第4領域
（学校経営・学級経営に関する領域）



こくほ よしこ
小久保 美子
教授（研究者教員）

担当分野
第2領域
（教科などの実践的な指導方法に関する領域）



こだじま いっこ
古田島 恵津子
教授（実務家教員）

担当分野
第6領域
（特別支援教育に関する領域）



たかぎ さちこ
高木 幸子
教授（研究者教員）

担当分野
第2領域
（教科などの実践的な指導方法に関する領域）



かわばた ひろみ
川端 弘実
特任教授（実務家教員）

担当分野
第4領域
（学校経営・学級経営に関する領域）



ながさわ まさき
長澤 正樹
教授（研究者教員）

担当分野
第6領域
（特別支援教育に関する領域）



なかしま のぶこ
中島 伸子
准教授（研究者教員）

担当分野
第3領域
（生徒指導・教育相談に関する領域）



ひょうどう せいいち
兵藤 清一
准教授（実務家教員）

担当分野
第1領域
（教育課程の編成・実施に関する領域）



みやその まもる
宮園 衛
教授（研究者教員）

担当分野
第1領域
（教育課程の編成・実施に関する領域）



よしざわ かつひこ
吉澤 克彦
教授（実務家教員）

担当分野
第3領域
（生徒指導・教育相談に関する領域）

取得できる教員免許状

専修免許状の種類に対応する一種免許状を有していることが必要となります。

- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・小学校教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状

(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語)

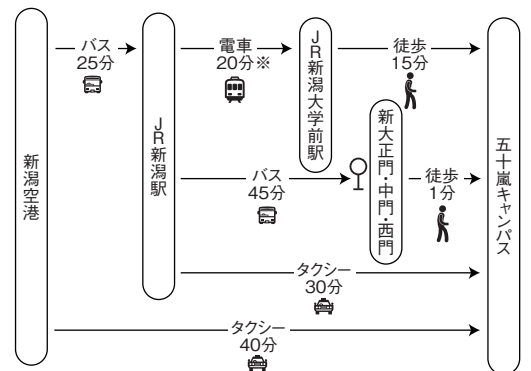
- ・高等学校教諭専修免許状

(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語)

- ・養護教諭専修免許状
- ・栄養教諭専修免許状

交通アクセス

新潟大学 五十嵐キャンパス



※五十嵐キャンパス西側の工学部方面へは、内野駅の方が近くなります。

●電車をご利用の場合

越後線「新潟大学前駅」下車後、徒歩約15分

●バスをご利用の場合

新潟駅万代口バスターミナルのりば
西小針線（「新大西門」行 または「内野営業所」行）乗車 → 「新大正門」
または「新大中門」、「新大西門」（約45分）下車後、徒歩約1分

新潟大学教職大学院ホームページ

<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/kyousyoku/>

新潟大学大学院教育学研究科 教育実践開発専攻
(教職大学院) 案内パンフレット

発行日/平成30年3月31日

発行者/新潟大学大学院教育学研究科 教育実践開発専攻

新潟市西区五十嵐2の町8050番地 (025-262-7101)